

長浜バイオ大学におけるPBLの現状 と課題への対応について

2014年6月27日

長浜バイオ大学

松島 三兒

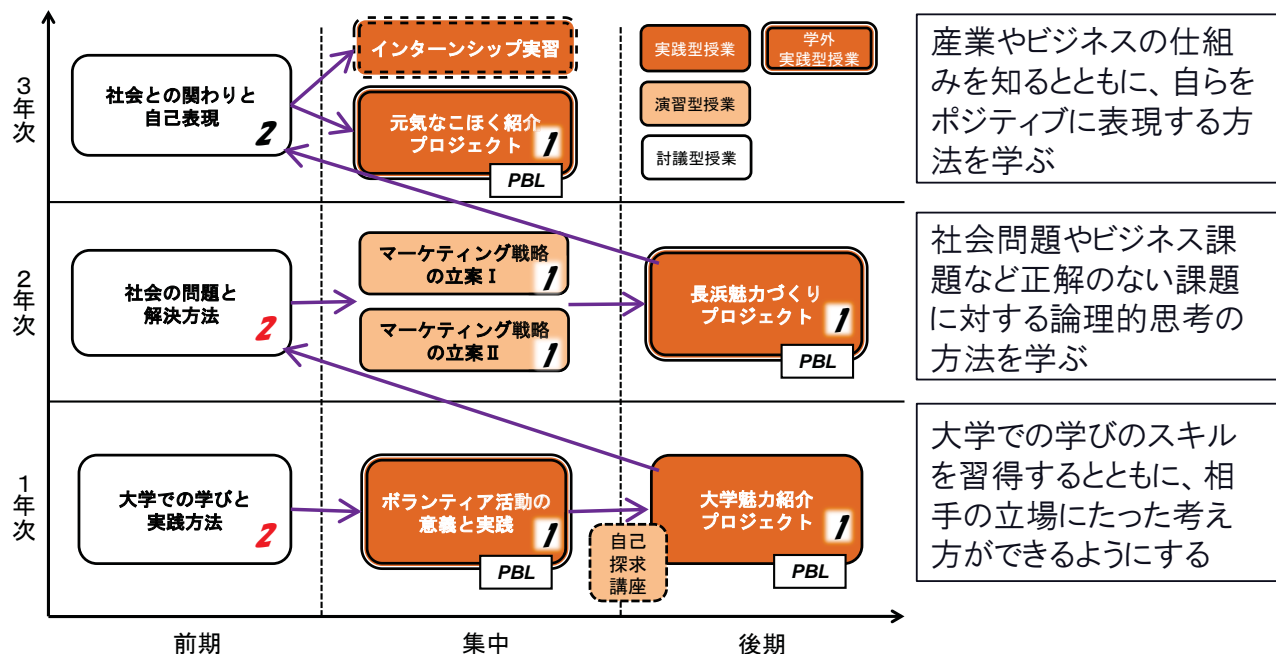
本日の内容

1. 本学におけるキャリア教育システムの構築 3
2. 学生の活動機会の増加 17

1. 本学におけるキャリア教育システムの開発

キャリア科目全体像

2003年度 開学 07年度 院開学 09年度 3学科体制
2014年度在籍者： 1,125名



昨年度ご協力いただいた企業・団体等

「ボランティア活動の意義と実践」

- ・ 社会福祉法人長浜市社会福祉協議会 浅田かず子様
- ・ 特定非営利活動法人CILだんない 美濃部裕道様
- ・ 社会福祉法人湖北会あ〜と様
- ・ 社会福祉法人滋賀県障害児協会 湖北タウンホーム様
- ・ 社会福祉法人ひかり福祉会 工房ふれっしゅ様
- ・ 社会福祉法人ひかり福祉会 セルプひこね様
- ・ 社会福祉法人ひかり福祉会 たんぽぽ作業所様
- ・ 社会福祉法人ひかり福祉会 HEART WORK結様
- ・ 社会福祉法人ひかり福祉会 ひかり園・輝湖里様
- ・ 社会福祉法人ひかり福祉会 友愛ハウス・ワークセンター絆様
- ・ 就労支援センター あっぷで〜と様
- ・ 特定非営利活動法人ウェル・エナジー様
- ・ 特定非営利活動法人ほっとステーション様
- ・ 山中由美子様

「社会の問題と解決方法」

- ・ フィナンシェ コンシェルジュ 小田大作様
- ・ 田中ケアサービス 代表取締役 田中正孝様

「社会との関わりと自己表現」

- ・ Billy Very 代表 貴詠様
- ・ Office Rism 代表 石川雅嗣様

「長浜バイオ大学魅力紹介プロジェクト」

- ・ 株式会社アクト アートディレクター スギノヨシカズ様
- ・ 株式会社ラーニングバリュー 岡田 妙様
- ・ 地域の方々、関係企業の方々

「長浜魅力づくりプロジェクト」

- ・ 写真家 石田貴大様
- ・ 長浜まちづくり株式会社 コーディネーター 吉井茂人様
- ・ 季の雲 中村敬子様
- ・ ファブリカ村 北川陽子様
- ・ 鉄工房 楽 山田大輔様
- ・ いざない湖北定住センター 川村千恵様
- ・ 工藤睦美様
- ・ あふみ舎 宇留野元徳様
- ・ 羽淵商店 羽淵久晃様
- ・ 特定非営利活動法人まちづくり役場 山崎弘子様
- ・ 長浜市教育委員会様
- ・ 長浜市立長浜小学校及び長浜北小学校様

「マーケティング戦略の立案Ⅰ及びⅡ」

- ・ 長浜バイオインキュベーションセンター 武内啓一様、箕浦淳様、加藤喜代重様、丸山紗千代様
- ・ 新江州株式会社 林 幹也様、小澤美佳様、澤 幹夫様、越中 茂雄様、雨川浩之様、足利英里様、中島康介様

「元気なこほく紹介プロジェクト」

- ・ 株式会社アドバンス 代表取締役 岡島洋介様、川森慶子様

外部評価委員

- ・ 大塚産業マテリアル株式会社 代表取締役社長 大塚敬一郎様
- ・ 長浜まちづくり株式会社 山内敬様

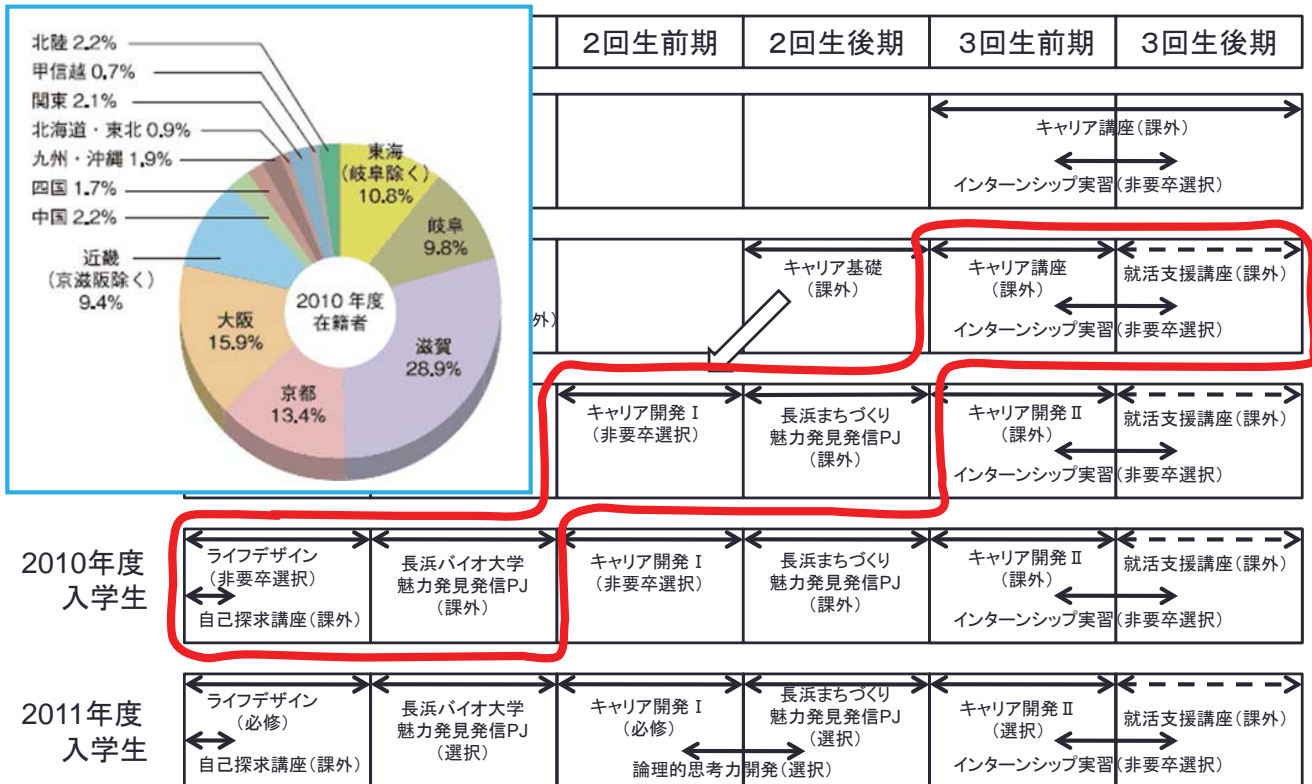
コーディネーター：長浜商工会議所 高岸秀重様、西村領太郎様

同時配信：スタジオこほく 板山きよ美様、多賀洋平様、藤田英典様

今日お話しさせていただくポイント

1. 本学のような小規模大学が、どうやって幅広い連携を構築してきたか？
2. PBLを、学生の自主的な街なか活動にどのようにつなげていったか？

キャリア教育カリキュラム構築の歩み



長浜での活動を前提とした授業を企画・実施

- 長浜商工会議所の担当者と相談の結果、長浜まちづくり(株)に協力を求め、市内での活動を伴う授業を実施することに
 - 実施するに当たり、学長から会頭宛てに協力申し入れのレターを出すよう商工会議所から要請



1. 目的

長浜商工会議所と長浜バイオ大学とが連携して、社会の経済的発展に寄与できる人材となるよう学生を育成・指導する。

2010年1月

2. 事業内容

長浜バイオ大学が実施するキャリア教育に、長浜商工会議所が協力する形で連携する。具体的には、以下の内容とする (添付の長浜バイオ大学キャリア教育プログラム (案) を参照)。

2010年度の協力企業・団体

「キャリア開発Ⅰ」

- ・新江州株式会社 代表取締役会長 森建司様
- ・大塚産業クリエイツ株式会社 代表取締役社長 大塚良彦様

「キャリア開発Ⅱ」

- ・新江州株式会社 循環型社会システム研究所編集長 辻村琴美様
- ・株式会社豊建築設計事務所 代表取締役 村田寿郎様

「長浜バイオ大学魅力 発見発信プロジェクト」

- ・株式会社アクト アートディレクター スギノヨシカズ様

「長浜まちづくり魅力 発見発信プロジェクト」

- ・長浜城歴史博物館 参事 太田浩司様
- ・長浜まちづくり株式会社 コーディネーター 吉井茂人様
- ・長浜まちづくり株式会社 タウンマネージャー 山内敬様
- ・株式会社ロハス余呉 ウッディパル余呉支配人 辻川作男様
- ・社団法人長浜青年会議所 副理事長 佐藤硬史様
- ・長浜商工会議所青年部 総務委員会委員長 前畠 徹様

コーディネーター

- ・長浜商工会議所 中小企業相談所次長 高岸秀重様
- ・長浜商工会議所 地域振興課係長 土田孝洋様

長浜まちづくり魅力発見発信プロジェクト (現 長浜魅力づくりプロジェクト)

事前講義

長浜の歴史
(長浜城歴史博物館
学芸員)

中心市街地のま
ちづくり事例
(長浜まちづくり会社
コーディネーター)

その他のまちづ
くり事例
(商工会議所青年部、
青年会議所等)



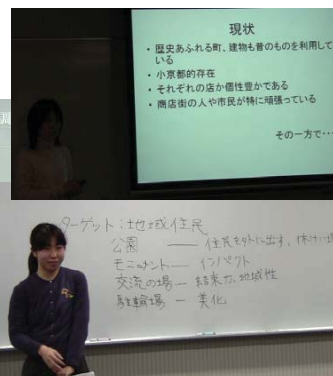
グループ作業中の参加者

最初はどんなふうになるかと思ったが、中間発表で印象が変わった。期待が持てる。先日もみなさんが街でインタビューしているのを見たが、こういうことの積み重ねがきちんとした中間発表につながったと思う。
(長浜まちづくり株式会社担当者のコメント)

最終発表



まちづくり課題の現場を観察する参加者



中間発表

街なかでの発表会を企画・実施

- 長浜商工会議所との連携をより密にするため、共催に近い形で魅力発見発信プロジェクト発表会を開催



(2011年2月 曳山博物館)



「長浜魅力づくりプロジェクト」の変遷

- 2010年度 企画提案のみ
↓ (リアリティを持たせたい)
- 2011年度 博物館通り商店街とのコラボ
 - 東北復興支援イベント“東北元気市場”のなかでのイベント
 - 盛り上がったが一過的



↓（継続性を持たせたい）

- 2012年度 カフェレストラン洋屋とのコラボ
 - 湖北らしさを追求したランチメニューの開発
 - 制約条件が課される中、学生たちは試作・提案までやりきったが、実際の調理・販売は洋屋で実施したため、販促活動への取組にメンバー間で差が出てしまった

↓（自分たちで実行するイベントが区切りとして必要）

- 2013年度 町家を使ったつながりの場づくり
- 今後は、特定の当事者との閉じた関係のなかで終わらないプロジェクトを志向
 - 本気度を担保 逃げられない状況をつくる

STUDIOこほくへの参加

- FM滋賀の元パーソナリティがインターネット放送を始めるのでスタッフとして参加しないかと知人より連絡あり
- キックオフミーティングに出て参加を決める
- 2012年2月の魅力発見発信プロジェクト発表会が初めての試験放送

<http://www.studiokohoku.net/>

個人ネットワークの構築とその効果

- 組織と組織のネットワークはない
 - 個人と個人の**打算的でない**ネットワークを築くことが大切
 - STUDIOこほくスタッフや出演者とのネットワーク
 - 上記を介したネットワーク
 - 地元経営者との私的飲み会等を通じたネットワーク
 - 地元商店街とのネットワーク
 - 地元農業者とのネットワーク
- ↓
- PBLを始めとするキャリア教育の広がり充実
 - 学生の街なかでの活動機会の増加

1年次集中「ボランティア活動の意義と実践」

- 相手の立場で考える習慣を身につけるきっかけづくり
- しょうがい者との協働体験を通じて、共生社会の実現に向け自分たちにできることを探索



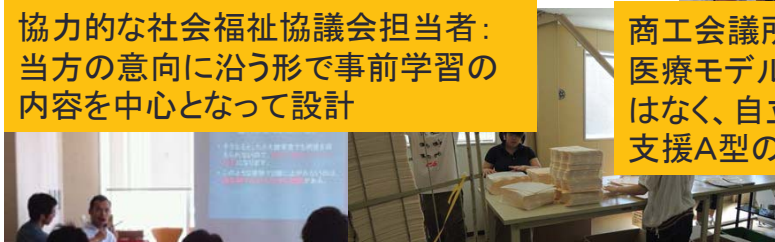
事前授業

協力的な社会福祉協議会担当者：
当方の意向に沿う形で事前学習の
内容を中心となって設計



グループ討議

商工会議所副会頭からのアドバイス：
医療モデルで税金をあてにした施設で
はなく、自立を目指している就労継続
支援A型の組織を中心に考えるべき



障がい者自立を目指すNPO法人理事長との
出会い：自ら脳性まひでありながら理想を目指
して闘う姿に圧倒され、事後学習内容を変更

動体験



発表

2. 学生の活動機会の増加

「長浜魅力づくりプロジェクト」参加者の活動継続

- 2011年度参加者
 - 2012年7月 わーくワーク北小タウン(長浜北小PTA事業)
 - 2013年11月 滋賀県ものづくりフェア2013
 - 2014年3月 エコでお絵かき キャップでアート!
- 2013年度参加者
 - 2014年3月 エコでお絵かき
キャップでアート!
 - 2014年5月 土曜学び座(長浜
公民館)
 - 2014年7月 わーくワーク北小タ
ウン(予定)



学生の街なか活動拠点としての町家の活用

- 2012年4月、長浜まちづくり(株)の事務所だった町家を借り受け、PBLの拠点として利用するほか、学生が継続的に使用できる拠点とした。
- 20名程度の学生が、週1回町家に集まり、市民と意見交換しつつ、「町家プロジェクト」として活動の方向性を模索してきた。



長浜青年会議所の活動への参加

- 2012年以降、長浜青年会議所ひとづくり委員会による子どもたちの自立を引き出す活動に参加



2013年7月
長浜青年会議所
輝らきらジョイント
ミーティング



2014年4-5月
長浜青年会議所
ドリーム・プロジェクト
訪問授業



A小学校

地酒プロジェクトへの参加

2014年度 長浜人の地の酒PROJECT



長浜人の地の酒 PROJECT

お酒をつくるための酒米を植えます。

5.24 (土) 10:00~14:00

hyakusyouya

黒壁AMISU



自主活動の立上げ



iGEM Nagahamaは、合成生物学の世界大会”iGEM”へと挑戦するために、2012年10月20日にスタート
2013年10月 香港でのアジア大会に出場、銅賞を受賞



Entrance to Scienceは、中学生以上の地域の方対象に授業形式で身近な科学の楽しさを伝えて、地域交流を深めよう！という目的をもって2012年11月に活動を開始



町家を使って、ほぼ隔月ペースで講座を開催

最後に

私たちが心がけてきたこと

- 普段から地域の人たちと打算的でない関係を築く
- 普段から街に良く行く
- 地域のイベントには積極的に参加する(楽しむ)
- 地域の活動にはできるだけ協力する
- 地域の人たちと学生たちが接する機会を作る(BBQ等)
- 学生が地域の活動に参加できる機会をできるだけ増やす
- 学生たちの自主活動にはできるだけ顔を出し、記録に残す
- 学生たちのPBLや自主活動の様子をできるだけ発信する
- 地域の人たちに啓蒙的に接しない

ご清聴ありがとうございました。